

令和6年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	8105	領域略称名	対話知能学
研究領域名	人間機械共生社会を目指した対話知能システム学		
領域代表者名 (所属等)	石黒 浩 (大阪大学・基礎工学部・教授)		

(評価結果)

A	—
(研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる)	

(評価結果の所見)

<p>本研究領域では、対話システムを構築するための様々な要素技術の開発やそれを用いたコンペティションの開催など、アクティブな研究が進められたことは高く評価できる。</p> <p>一方、「対話知能学」という新たな研究領域を確立したというよりは、従来から行われてきた研究をまとめた印象が強く、深い対話に大きく迫る成果にまでは達していない。深い対話の目標が具体的に何であり、それがどこまで達成したかを客観的に評価することが難しい成果に留まっている。研究項目間あるいは異なる専門領域の研究者の連携による相互作用及び連携によってこそ達成された成果が何であるかを具体的に説明する必要がある。対話において、言語だけでなく、マルチモーダルな情報を扱っているが、言語モデルにおいては言語情報しか扱われていないこと、また、対話における身体性の役割や必要性に対する取り組みが充分に行われておらず、学理としての領域の視座が十分に広がったとは言えない。規制に関しては、EUのAI規正法の提案に対する言及がなく、それを対象とする筈の研究項目A04の取り組みの視野をより拡げることが望まれた。</p>
